今回の調査では【問1】男女平均で「男は仕事・女は家庭」を肯定しているのは一桁で、はっきりと否定している率が高く、特に女性の69パーセントは相当高位です。それは当然【問10】に深く連動しています。いま非婚、未婚が多くなっていて、結婚が必ずしも人生設計上の基本ではなくなっているとしても、「結婚し出産もし、なおかつ働き続ける」ことが素朴な欲求として第1位に上がってきています。

しかしそうは思っても現実は厳しく、「そうありたい」けれども「結婚し出産したら仕事は辞め、子どもがある年齢に達した後再び働く」【問10】のが妥当ではないかと答えており、これも前述のようにほかのあらゆるデータと見事に重なり合っています。2人で働かなければ生活が維持できないだろう、女性も働いてイキイキとしたい、あるいは大学を出たら何らかの仕事につくのは当然と思うなどがその理由のようです。

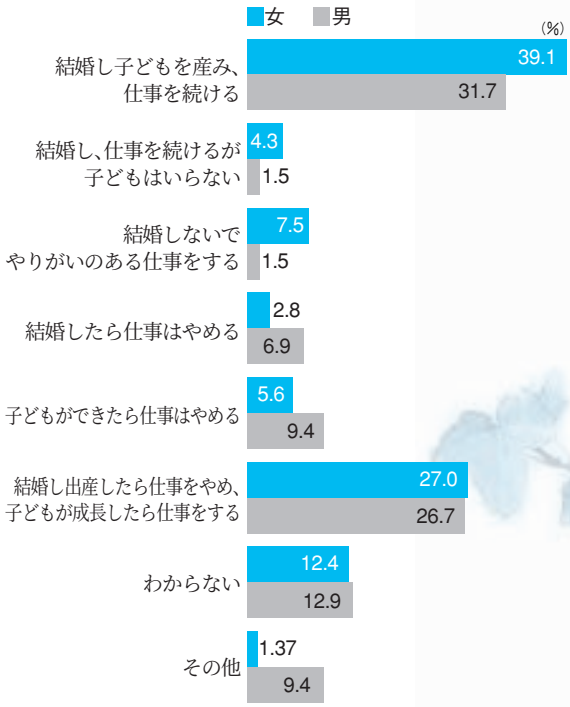
また「結婚しても子どもは持たず仕事を続けたい」「結婚しないで仕事を続けたい」と思っている女性が男性の倍以上で、この数字は「子育てがリスク」であり、「やりがいのある仕事に就きたい」という方向に目が向いていることを物語る見落とせない数値です。これは「男は仕事・女は家庭」という考え方をはっきり否定している女性にとくに顕著で、今後の新しい生き方を示唆しています。

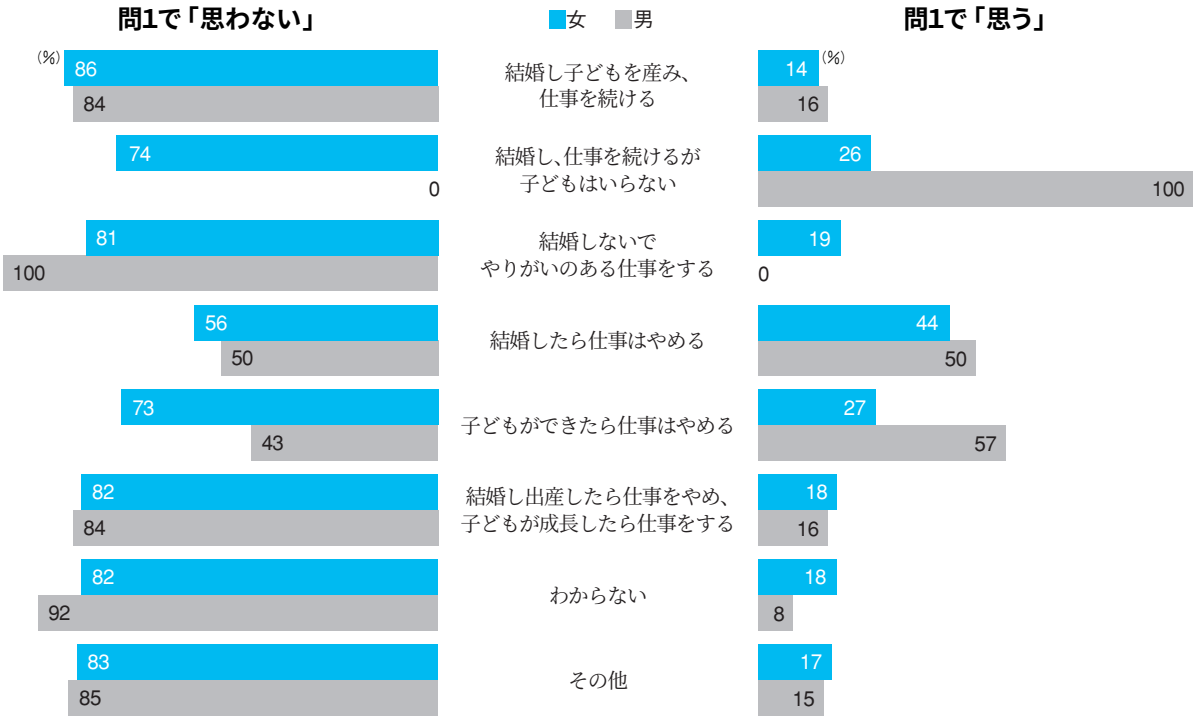
夫婦別姓に対しては知識や関心は持っているようで、女性の社会進出や少子を反映しているのでしょうか、多く賛成しているにも関わらず、実際に別姓にしたいと回答しているのは女性でわずかに7パーセント、男女とも「夫の姓に」というのが健在のようです。

問10

卒業後のあなた（女性）の人生設計に近いものはどれですか

（男性の回答者は、女性の人生設計として望ましいと思われるものを選んでください）



「クロス」

各設問ごとに回答数をまとめた単純集計に対し、2つ以上の設問の間で相互の関連を探るのがクロス集計。ここでは問1「男は仕事、女は家庭」という考え方に対して、問10の卒業後の人生設計のどれを望ましいと考えているのかを比較した。